

(地Ⅲ129F)

平成28年9月12日

都道府県医師会

感染症危機管理担当理事 殿

日本医師会感染症危機管理対策室長

釜 范 敏

ジカウイルス感染症患者（輸入症例）の発生について

今般、日本国内で、ベトナム在住の女性1名が発疹等の症状を示し、9月10日、東京都内の地方衛生研究所における検査の結果、ジカウイルス感染症の陽性が確定したことから、厚生労働省より添付のとおりプレスリリースされましたので情報提供いたします。

我が国でジカウイルス感染症患者が発生したのは11例目(全て輸入症例)であり、今年2月以降としては8例目になります。

なお、患者は現在、発疹等の症状が認められるものの、状態は安定しているとしております。

つきましては、貴会におかれましても本件についてご了知のうえ、郡市区医師会、関係医療機関等に対する情報提供について、ご高配のほどよろしくお願い申し上げます。

平成 28 年 9 月 12 日

【照会先】

厚生労働省健康局結核感染症課

感染症情報管理室長 宮川 昭二(内線 2389)

課長補佐 大塚 和子(内線 2376)

(代表番号) 03(5253)1111

報道関係者 各位

ジカウイルス感染症患者（輸入症例）の発生について

日本国内で、ベトナム在住の女性 1 名が発疹等の症状を示し、9 月 9 日に医療機関を受診しました。ジカウイルス感染症の疑い事例として医療機関から自治体（東京都）に届け出があり、9 月 10 日、東京都内の地方衛生研究所における検査の結果、ジカウイルス感染症の陽性が確定しました。

我が国でジカウイルス感染症患者が発生したのは 11 例目(全て輸入症例)であり、今年 2 月以降としては 8 例目になります。

この患者に関する情報等は、以下のとおりです。

○ 患者に関する情報

(1) 概要

- ① 年代：40 代
- ② 性別：女性
- ③ 居住国：ベトナム
- ④ 症状：発疹、頭痛、結膜炎、関節痛
- ⑤ 現地での蚊の刺咬歴：あり

(2) 患者の状況

現在、発疹等の症状が認められるものの、状態は安定しています。

国民の皆様へのメッセージ

ジカウイルス感染症は、一般に蚊に刺されることによって感染する疾患です。

ジカウイルス感染症は一般的に軽症であり、重症化するリスクは極めて低いですが、流行地域へ渡航する場合は、長袖・長ズボンを着用したり、蚊の忌避剤（虫よけスプレー等）を使用したりして、蚊に刺されないように注意してください。特に、妊婦の方は、流行地域への渡航は控えてください。

性行為感染のリスクを考慮し、流行地域に滞在中は症状の有無にかかわらず、性行為の際にコンドームを使用するか性行為を控えることを推奨します。

また、流行地域からの帰国者は症状の有無にかかわらず、忌避剤の使用など蚊に刺されないための対策を、少なくとも 2 週間程度特に注意を払って行うことが推奨されます。流行地域から帰国した男女は、症状の有無にかかわらず、最低 8 週間、パートナーが妊婦の場合は妊娠期間中、性行為の際にコンドームを使用するか性行為を控えることを推奨します。

※WHO暫定ガイダンス（6 月 7 日改訂）を踏まえた方針